

県士会 ニュース

No.238

[2026.4]



Kanagawa Association of Occupational Therapists — KAOT —

TOPIC

12/6(日)臨床作業療法大会 大会長&実行委員長を直撃！ P. 2

巻頭言	P. 1	理事会議事録	P. 7
神奈川県庁訪問	P. 3	2026年度定期社員総会開催のお知らせ	P. 9
教育部からの報告	P. 3	神奈川県作業療法士会入会案内（新卒必見！）	P. 9
学術部からの報告	P. 4	事務局からのお願い	P. 9
地域社会振興部からの報告	P. 5	編集後記	P. 9
WEB管理対策委員会からの報告	P. 6		

巻頭言

2026年度 挨拶



一般社団法人神奈川県作業療法士会
会長
神保 武則

新入会員の皆さま、この度は神奈川県作業療法士会にご入会を頂きまして誠に感謝申し上げます。2026年度からの新しいエネルギーとなる大変貴重な人材です。思う存分に沢山のことに関心を寄せて頂き、互いに高め合う向上心を武器に、この神奈川県を盛り上げて頂けますと幸いです。是非とも皆さま一人ひとりが希望に満ち輝き、当士会の構成員として活躍して下さいことを、当会を代表し心より祈念致します。また、日頃より当士会会員の皆さまをはじめ、県民の皆さま、医療関係団体や病院協会・保険医協会、養成機関や行政機関の皆さま方には心温まるご支援やご指導を頂き感謝申し上げます。改めまして2026年度も引き続きご支援ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。

さて、2026年度は診療報酬改定を迎える年です。我々としても非常に注目しているところでもあります。今回は医療現場の人件費やコスト増への対応が大きな柱となり、ベースアップ評価料の段階的引き上げや、急性期総合体制

加算の新設にもあるように「機能」と「実績」をより明確に評価する方向性が打ち出されているようです。診療報酬改定は、本体3.09%（賃上げ対応：1.70%、物価対応：1.29%）であり、今回、若干の増が見込まれているようですが、世の物価高の流れに適切なタイミングで順応できているのか、誰もが問う時代。現実的には非常に厳しい状況になることはイメージが付きまします。今現在でも、誰もが生活する上で不可欠な食料品や日常雑貨品等の凄まじい高騰の流れが来ています。現実的な物価対応ができる医療現場の機能損失を食い止める対策も求められています。日本はこの先どうなるのでしょうか。我々作業療法士ができること、それは、「作業療法士だからこそできること」を増やすことでしょうか。当士会も日本作業療法士協会と共に協力しながら、引き続きリハビリテーション全職の価値と実績を伝え、日本政府に対し、適切な報酬制度や処遇改善を強く要望していくことになりそうです。

この時期、新たな門出を迎える方々も多くいらっしゃると思います。一つ一つが芽吹く新芽となり、新たな春風を運ぶことでしょうか。これからも、作業療法士としての益々の発展と、共に築く希望に満ち溢れた神奈川県作業療法士会を是非とも皆の力で作っていきましょう。今年度も何卒宜しくお願い致します。



小砂 大会長

12/6(日)臨床作業療法大会 大会長&実行委員長を直撃！



◀◀ 臨床大会ホームページ

公式X (旧Twitter) ▶▶



須藤 実行委員長

(HP : <https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/kccot7>)

Q1. 役割を打診された際の思い

小砂：自分にその大役が務まるのかという不安もよぎりましたが、それを上回る「面白そう！」「新しいチャレンジができる」という気持ちで引き受けようと思いました。

須藤：小砂大会長のためなら、頑張ってみようかなと思いました。よくしてくれた人との縁を大切にしよう！自分から踏み出して新しいことに挑戦しよう！と思いました。

Q2. どんない臨床大会にしたいですか？

小砂：長く臨床を続けるには、同じように頑張っている仲間がふれ、つながることだと考えています。若手の方を中心に、今大会がこの先のモチベーションにつながれば嬉しいです。

須藤：参加した人の背中を押す、熱量のある大会にしていきたいです。横須賀で、ひとりひとりが少しだけ次の一歩を踏み出せるお手伝いができたら嬉しいです。

Q3. 会場周辺のおすすめスポット

小砂：うみかぜ公園から猿島を眺め、夜は海軍カレー&ドブ板通り、外灯ともるヴェルニー公園から軍港を眺める、これぞ「臨床大会&横須賀満喫ツアー」(完)

須藤：日曜だけ開いているコーヒーロースターはおすすめ。ドブ板通りでカルチャーショックを受けつつ、ぜひ定番のハンバーガーやケバブなんか食べてもらえるといいかな。

Q4. 大会テーマへの思い

小砂：依存症というニッチな領域に挑み、時に孤立し燃え尽きそうになりながらも、専門性を高めてきた。同じようにニッチなことに興味をもち悩む仲間は必ずいる。小さな実践もやがて「プロフェッショナル」へ通じると信じています。

須藤：今までにないくらい神奈川の学会を盛り上げていきたい気持ちがあります。対面で真面目な話も不真面目な話も語り合い、「1人でも独りではない」と感じてほしい。日々の取り組みを昇華し、大切な人や対象者を支える原動力を持ち帰ってもらえたら。

Q5. 最後にひと言

小砂：実行委員に支えられながら、「面白そう」を詰め込んで準備中。大会HP・SNSで随時情報発信しますので、ぜひフォローをお願いいたします。各種SNS公式タグ：#KCOT7th

須藤：皆さんが目の前の課題に向かって前向きに一步踏み出せるよう、ただいま実行委員一同で、ワクワクと熱量を込めて準備しています。12月、横須賀でお会いしましょう！

次号以降にプログラムなどの大会コンテンツも順次ご紹介させていただきます！

神奈川県庁 訪問

新年を迎えた2026年1月29日、神奈川県庁西庁舎にある健康医療局保健医療部に足を運んだ。今回は、神奈川県が毎年実施している県民ニーズ調査の結果を踏まえ、作業療法士会ができることを協議することになっていたためだ。当士会からは、遠藤副会長、MTDLP担当の村仲理事、社会振興部部長の佐藤理事と副部長の石川理事と、私の5名が参加した。本件は、今までの訪庁から、さらに発展する話し合いとなった。作業療法士が作業療法士の視点や介入等により、『生活』と『ひと』をキーワードに、神奈川県民の質の高い健康/予防/未病事業の推進者として、具体的に展開することができるのか、という今までよりも少し掘り下げた内容となった。今回の県民ニーズ調査は神奈川県民の1905人が回答したアンケート調査。当士会の理事会では、理事全員が県民ニーズ調査を読み込み、作業療法士ができる対応策を話し合ってきた。一つの例として紹介すると「地域社会との関わり」と「地域活動」に関心を寄せた項目。詳細には、「長い人生を充実するため、コミュニティなど、地域社会との関わりを大切にしたい」と思う方が65.5%。「地域活動に参加したい」と思う方は35.7%。分からない方も29.8%もいる。また、「どのような地域活動があれば参加したいか」、を尋ねると「具体的に参加したい活動はない」と答えた方は20.9%という結果。作業療法士の見解として



も、なんらか県民の社会的フレイルをはじめ、認知的フレイル、身体的フレイルなどがその主体性を低下させていく懸念も示唆される結果とも思われた。2040年を16年後に控え、様々な意識を揃える必要もあるが、一つのヒントとし、定年退職の社会的孤立のないように作業療法士が介入するMovementを作ること必要であることを伝えた。これらに対応するアセスメントツールが生活行為向上マネジメント (MTDLP) であり、この説明には医療整備人材課長も人材養成グループリーダーも大きく頷いて下さり、『県の未病対策にも活用ができそうだ』との反応を頂き、次回以降も更に具体化した協議を持つ機会をもつことと

なった。加えて、5歳児検診の作業療法派遣の話題にも触れた。日本政府の子ども家庭庁は、2028年度までに5歳児検診の100%実施率を目指すとしているが、神奈川県では実施している自治体はないこと。そして、他県では5歳児検診に作業療法士の派遣が行われていることもお伝えし、早急な体制整備として庁内で協議する方向との話を頂きました。

今回の県庁訪問は、神奈川県中央行政機関と当士会が、互いに顔の見える風通しのよい協力体制の基礎が強化された意義ある時間となりました。これからも神奈川県民の健康に向き合い、多くの笑顔に触れられるよう更なる協議を重ねて参ります。

各部からの報告

▶ 教育部

連載 教育部 MTDLP推進育成課からのお知らせ

今年さらには“現場で使える”形へ！ 第7回大会でワークショップ&プレ企画も予定

MTDLP推進育成課からお知らせです。次回「第7回神奈川県臨床作業療法大会」にて、当課主催のワークショップを開催する予定です。今年度は、MTDLPを「学ぶ」だけで終わらせず、「現場で進められる」「続けられる」形にしていくことを意識して、活動をより活発にしていきます。

当日のワークショップでは、MTDLPの基本をあらためて整理しつつ、実際に職場でどう進めるか、どこでつまづきやすいか、どう工夫すると回りやすいか、といった実践につながる話を中心にお届けする予定です。「結局、明日から何をすればいい？」が見える内容を目指します。

また大会プレ企画として、MTDLP推進育成課が、ある職場の管理職の方々と対象となる支援場面に関わりながら、MTDLPの進め方を支援してきた取り組みについてご紹介する

企画も準備しています。職場の中でMTDLPを動かすときに起こりがちな課題や、進めるためのポイントを、できるだけ分かりやすく共有する予定です。

さらに、基礎研修を修了された方を対象に、実践者研修として「土会の事例検討で発表するまで、どんな手順で進めればよいか」を示していきます。事例のまとめ方、準備の段取り、相談のコツなど、必要なところをシンプルに整理して、次の一歩につなげられるようにします。希望があれば、指導者を目指す方向への簡単なレクチャーも取り入れていきます。

今年度は、MTDLPを県内でもっと身近に、もっと実践的に広げていきたいと考えています。会員の皆様のご参加とお力添えを、どうぞよろしくお願いいたします。

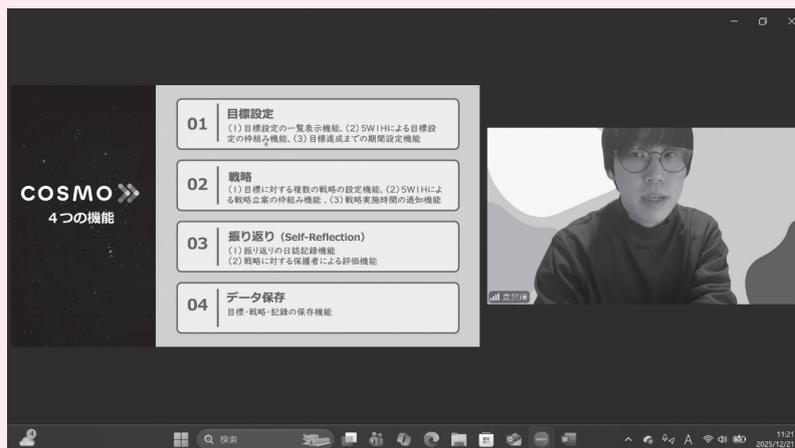
(文責 教育部・MTDLP推進育成課 担当理事 村仲準一郎)

▶ 学術部

学術部主催スキルアップ研修会（身障分野）をオンラインで開催しました！

2025年12月21日、みなとのこどもデイ / 神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 研究員 倉昂輝先生より「発達領域における子どもと家族を中心とした目標指向型アプローチ - 目標設定から戦略立案までの視点 -」をテーマにオンライン研修会を実施しました。県内・県外問わず約40名の参加がありました。子どもや家族との協働の重要性を踏まえ、目標設定から戦略立案に関する視点についてご講義いただき、子どもと家族の大切な作業の実現を支える目標達成支援アプリ (COSMO) についても紹介をいただきました。本研修会を通じて、発達領域におけるリハビリテーション支援の在り方について理解を深め、さらなる実践の一助となる有意義な機会となりました。最後に、ご多忙の中ご講演をお引き受けいただきました倉昂輝先生に感謝いたします。

(文責：高見澤)



「信念対立解明アプローチ」をテーマにオンライン研修会を開催しました！

2月15日にイムス横浜東戸塚総合リハビリテーション病院の宇都宮裕人先生より、「作業に根差した実践に活かす多職種連携 - 信念対立解明アプローチ活用のための基礎知識 -」と題したオンライン研修会を行いました。信念対立の解説に加えて、医療者に影響する利点・欠点や組織での問題を教えていただきました。また、職種間・患者家族間での陥りやすい信念対立と具体的に活用できるような対策方法の他に、事例から信念対立を読み解くポイントについて解説していただき、とても参考になりました。全国の病院や地域で活躍されている50名以上のOTが、作業療法の領域を問わず活用できる研修会だったと思います。講師を引き受けていただいた宇都宮先生に感謝いたします。また、参加された皆様、本当にありがとうございました。

(文責：益田)

専門性や
役割の違いによる
信念対立



「看護師」
資源：1対多数での対応、時間の縛りがない
専門性：医療や介護中心の視点
役割：病院生活の安全優先



「MSW（相談員）」
資源：1対1もしくは1対家族で対応
担当数は多数で病院外のやり取りが多い
専門性：経済的、社会的な問題に対する視点
役割：入退院のバランスを優先
退院後の生活の安全や安定を優先



「リハビリ職種間」
資源：1対1の関わり、単位で時間を作る
専門性：生活改善や自立度改善の視点
役割：FIMを意識した早期退院を優先
動作改善や自立支援を優先

対策

- ・お互いの専門性を理解する
- ・どのような視点で話しているかを明確にする
- ・お互いの思っていることを共有する
- ・退院という目的をもとに納得し合える方法を考える



▶地域社会振興部

認知症とともに生きる、あたたかな生活デザイン ー オレンジイノベーション・プロジェクトにおける作業療法の実践 ー

オレンジイノベーション・プロジェクトは、認知症のある方や高齢者をはじめ、誰もが住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられる社会の実現を目指す、経済産業省が推進するプロジェクトです。生活の中にある具体的な困りごとを起点に、専門職・企業・行政が立場を越えて協働し、製品や仕組みへとつなげる“共創”と“社会実装”を重視している点が特徴になります。

この度、パートナー団体として当会に参画のお声がけをいただき、作業療法の専門的視点を活かしたワークショップを開催する運びとなりました。作業療法士がもつ「人・作業・環境」の視点は、生活課題を具体的な形に落とし込む上で重要な役割と期待されています。専門職団体として本プロジェクトに参画できたことは、作業療法の社会的価値を発信する貴重な機会となりました。

2月8日に開催したワークショップでは、県士会員10名に加えて経済産業省や神奈川県職員の方、そして磁石メーカーである株式会社マグエバー様にもご参加いただきました。多職種・多機関・企業が一堂に会し、それぞれの立場から率直な意見交換を行うことで、実践的かつ実装可能性の高い議論が展開されました。

当日はまず、磁石の特性や安全性、種類ごとの強度や用途の違いについて学びました。その後、実際に製品を手に取りながら、生活場面での活用可能性を具体的に検討しました。外出準備、服薬管理、衣類の着脱、物品の定位置管理など、日常生活の中の困りごとを共有し、作業分析の視点から環境調整の方法を整理しました。

議論の中では、洋服のボタンや髪留めへの応用、整理整頓を促す仕組みづくり、付けやすく外れにくいGPS機器の装着方法など、多様なアイデアが生まれました。単なる製品開発の発想ではなく、「できない」を「できる」に変える環境づくりという作業療法の専門性が随所に活かされた点が本ワークショップの大きな成果と感じました。

次回は県内の認知症カフェにて、認知症のある方と共にワークショップを実施予定です。当事者の声を直接反映させながら、より実効性の高いアイデアへと発展させていきます。今後も本会として、専門性を社会へ発信し、地域と産業をつなぐ実践を積み重ねていければと思います。関心のある会員の皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

文責：佐藤隼（地域社会振興部）

地域社会振興部こども班主催

フロントライン～OTが関わる5歳児健診の最前線を知る

こんにちは！地域社会振興部こども班です。2025年9月28日に、「フロントライン～OTが関わる5歳児健診の最前線を知る」というテーマで、こども班主催の対面研修会を開催致しました。

講師に長崎大学生命医科学域（保健学系）教授・同子どもの心の医療・教育センター副センター長の岩永竜一郎先生と、東京家政大学健康科学部リハビリテーション学科助教授の東恩名拓也先生をお招き致し、現在5歳児健診を実施している地域の現状と実態、5歳児健診に関する評価的知識や地域の情報などを学びました。研修の最後には、協会から、5歳児健診への現状の取り組みと方向性のお話もあり、会全体で幅広い情報を得られる時間となりました。

研修後には、新人の方や他県士会の参加も含む懇親会も行い、新たな繋がりをもち帰ることができた方も多くいらっしゃいました。今回、こども班としては久しぶりの対面研修でしたが、直接会える交流の良さを感じる有意義な研修となりました。2026年度も発達領域の作業療法の学びと、県内外のつながりを会員の皆様とともに深めていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。（文責：こども班 佐藤佳央里）



▶地域社会振興部

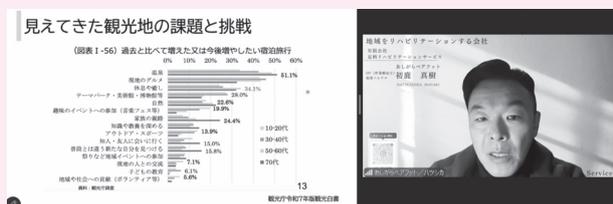
県士会ニュース4月号 地域ミーティング開催について

2026年1月21日に地域社会振興部人材育成班主催による「神奈川で繋がろう地域ミーティング2025 vol.2 やりたいことを支える作業療法～制度の枠を超えた支援を考える～」がオンラインで開催されました。神奈川県士会会員は無料ということもあり、神奈川県士会会員は35名。その他東京・埼玉・千葉や福岡など幅広い地域の作業療法士、総勢47名に参加いただきました。経験年数では6～10年目の中堅層の参加が一番多く、事後アンケートでは満足度100%となったミーティングとなりました。

今回は、有限会社足柄リハビリテーションサービス 観光事業部あしがらベネフィットの初鹿さんから事業

についてご講演いただきました。箱根観光協会の方と行った観光ガイドさん向けの車いす操作研修や温泉ヘルパーについて動画を交え、ご紹介していただきました。ADLだけでなく趣味活動にまで介入できるという作業療法士の活躍の場が広がるような内容でした。

講義の内容を含め自分が制度の枠を超えられたら作業療法士として何が出来るのか、自分の経験を踏まえグループワークとして活発な意見が出されました。来年度もいろいろな情報をテーマにオンラインで開催していく予定です。皆様のご参加お待ちしております。(文責：清水琳香)



【スクリーンショット】
2026.1.21 人材育成の地域 MT (初鹿さん講師におけるニュース記事の添付写真)

▶WEB管理対策委員会

ウェブサイト管理班 X(旧Twitter)紹介

ウェブサイト管理班では県士会ウェブサイトをはじめメーリングリスト、Facebook、X(旧Twitter：以下X)、Youtube、Instagramなど様々なメディアにて、会員の皆様に有益な情報が届くよう努めております。今回は最も登録者数が多いXの発信情報を紹介します。

Xでは県士会サイト・ブログの更新情報はもちろんのこと、リハビリテーション関連ニュースなどの情報も取得することができます。Xの投稿は月50件以上

も珍しくありません。日々忙しいために、神奈川県作業療法士会の情報やリハビリテーションに関する情報を自ら取得に行けないこともあろうかと思えます。神奈川県作業療法士会・広報部・情報発信課のウェブサイト管理班のXアカウントをフォローしておく、必要な情報の取り逃しも減って便利です！

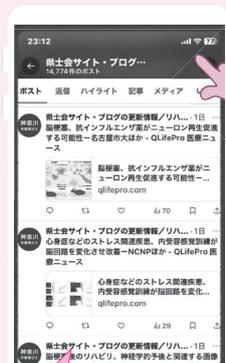
フォローお待ちしております。

(文責 広報部 佐藤範明)

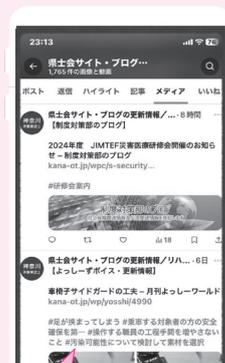
図)



神奈川県作業療法士会
広報部・情報発信課
ウェブサイト管理班
X公式アカウントはこちら



リハビリテーション関連ニュース



県士会サイトの更新情報



県士会サイトの更新情報

理事会議事録

★2025年度 第7回 理事会 議事録 2025.12.12

日 時：2025年12月12日(金)19:00～21:05

開催方式：対面開催

場 所：商業ビル「セルテ」801会議室

出席理事：神保武則(会長)、田中ゆかり(副会長)、奥原孝幸(副会長)、遠藤陵晃(副会長)望月強併(事務局長)、玖島弘規、野本義則、澤口勇、青木啓一郎、佐々木秀一、神田崇央、神保洋平、佐藤隼、佐藤範明、山勢健太郎、村仲隼一郎、佐伯まどか、石川恵美子

欠席理事：錠内広之

出席監事：野々垣睦美

オブザーバー：廣瀬選挙管理委員長、中西学会長(第20回県学会)、小砂大会長(第7回臨床大会)、木下学会長(第21回県学会)

I. 神保会長より挨拶

今年は組織改編、行政訪問など多く動いた年でした。県士会としても前に進んでいると思います。

本日は県学会、臨床大会長に出席頂き、ご報告頂きます。本日もよろしくお願ひ致します。

II. 報告事項(各部署・理事・三役)

1. 第7回神奈川県臨床作業療法大会 経過報告について(小砂大会長)

テ ー マ：「ニッチは、やがてプロフェッショナルへ」

会 期：2026年12月6日(日) 10:00～16:00

会 場：神奈川県立保健福祉大学

プログラム：市民公開講座、教育講演、学術発表、症例検討

現在、実行委員を中心に市民公開講座や講演内容を検討中。実行委員についても増員予定。

2. 代議員選挙 経過報告について(廣瀬選挙管理委員長)

12月1日立候補受付開始、12月28日受付終了。1月6日集計結果を理事会へ報告。

定員未満の場合、1月10日推薦承諾書の受付開始、2月13日推薦承諾書の受付締め切り。

滞りなく運営できるよう進めていく。各部署ご協力をお願いしたい。

3. リハビリテーションを考える議員連盟の総会報告について(神田理事)

主に以下の内容について提案がなされた。

- ①物価高に対応し、他産業に匹敵する持続的な3療法士の賃上げ
 - ②20年間変わらない診療報酬における基本報酬体系の見直し
療法士の自律性(生涯学習)を診療の質への反映および診療報酬へ価格転嫁
 - ③訪問サービス提供体制の再構築と基盤強化
 - ④すべての人の健康と疾病予防等に資する3療法士の活用(資格法の改正等)
 - ⑤厚生労働省におけるリハビリテーション課の設置及び「今後のリハビリテーション専門職の在り方検討会(仮称)」の設置
- 賃上げについては例年通り提案がなされており、今回はその中でも特定の資格(認定作業療法士等)の算定要件化や厚生労働省におけるリハビリテーション課設置について提案がなされていた。

4. WEBサイトリニューアルに伴う業者選定について(野本理事)

現在、3社に情報収集を行っている。業者の選定については年明けにコンペができるよう進めていく。

業者の決定、サイトの内容については今後、三役や関連部署と協力し理事会に提案していく。

III. 審議事項

1. 後援依頼(事務局)

・福祉体験ワールド2026

→賛成多数で承認。

2. 部員承認(事務局)

→賛成多数で承認。

【その他報告部署・理事】

IV. トピックス

1. 2026年度事業計画・予算案について

①事務局

例年通りの事業を継続。新規事業としては会員管理システムの導入、会員班の創設を行う。会員班については現在のWGの活動を継続する。事業内容については関連部署と協力しながら進めていく。

②財務部

例年通りの事業を継続。新規事業として資金調達・助成金管理機能の整備を検討している。県士会事業で助成金を申請できないかなどを検討していく。会計業務の負担についてはシステム面、作業面、人的面を含めて課題を精査し対応方法を検討する。

③福利部

会員同士が繋がれる事業を提案。新入会員オリエンテーションについては単発ではなく、オンラインなどで複数回開催し、参加者を増やしていけると良い。OT協会から倫理班の設置を依頼されているため設置に向けて進める。その他については例年通りの事業を継続する。

④規約部

例年通りの事業を継続。

⑤学術部

例年通りスキルアップ研修、研究助成金事業、学術誌発行を軸に事業を継続。2025年度は研修会のアーカイブ配信を実施し、研修会後の視聴も一定数見られ有効な手段であると考え。研究倫理審査委員会設置事業も進めていく。

学会支援課については第7回臨床大会、第21回県学会の運営サポート、運営マニュアルの更新と内規の整備を行っていく。

⑥教育部

例年通りの事業を継続。生涯学習制度の広報・啓発・推進を行い、登録OTや認定OTの認知度、取得へ向けた活動を行っていく。臨床実習指導者講習会の対面開催についてはオンライン開催を残しつつ、状況を見ながら検討を進める。

MTDLP推進課については、例年の事業を継続し新規事業としてMTDLPつながるケア推進事業を提案している。MTDLP指導者を地域や教育の場に派遣し、作業療法の考えを普及できるように準備をしていく。次年度においては準備年になると思われる。

⑦広報部

例年通りの事業を継続。大きな点としてはWEBサイトリニューアルを提案している。業者を選定し、どのようなサイトにするかなど詳細については今後検討していく。県士会ニュースのオンライン化については紙面、オンラインのメリット、デメリットを考え、判断をしていきたい。

⑧制度対策部

例年通りの事業を継続。福祉用具については学術部とも福祉用具については学術部とも引き続き合同研修を進めていきたい。

⑨地域社会振興部

地域事業課は人材育成に注力して事業を展開していく。横浜市地域リハビリテーション活動支援事業を基盤として人材育成の場としても活用し、次世代を担える人材を育成していく。

地域リハ課はこども班や難病班などそれぞれの専門的な研修会開催や情報配信を行っていく。

⑩エリア化

地域活動助成金事業は副会長、前任理事、現理事の三者で協議していく。1月の理事会で提案予定。

エリア化については県士会としてエリア化するか否かの判断が必要。県内8エリアを設定し、エリア担当理事やエリア長、市町村窓口担当、エリアミーティング担当の配置を検討している。

県士会がエリア化する目的、目指すものを共有する必要がある。

<意見交換>

・Confitの継続利用について

学会支援課内でConfitの継続利用や実行委員の謝金、参加費などの素案を検討していく。

学会支援課、学術部で検討した上でメール等で理事に共有する。

→今回の事業計画・予算案をもとに副会長が取りまとめ役として内容の精査を行う。まずは関連部署で会議の場を設けて頂く。会議後、議事録を共有。

2. 第20回神奈川県作業療法学会 終了報告について(中西学会長)

資料を供覧し報告。

本学会では、県民公開講座を学会前夜祭として開催。県民、多職種含め86名の参加があった。

学会当日と分けて開催することで、一般の方と学会参加の方の棲み分けが明確で運営がしやすかった。

演題採択については、J-stage、医中誌への掲載を行うにあたり内容の質的担保のため、修正が必要な場合は修正後採択として助言を行った。

今後の反省点と課題については「実行委員、座長の参加費の扱い」、「託児所の在り方」、「助成金申請」、「宣伝活動」、「学会予算」が挙げられる。全体として参加者数がコロナ前と比較すると少ない状況である。学会に興味を持ってもらう取り組み、広報活動を検討する必要があると思われる。

全体を通して満足度の高い学会を開催することができた。

3. 第21回神奈川県作業療法学会 経過報告について(木下学会長)

昨今、若手OTの学会参加が少ない状況である。本学会においては若手OTが興味を持つ内容や企画を検討していく予定。これから実行委員を集めていき、学会の企画、予算等を検討する。

V. 錠内監事より

今年1年間お疲れ様でした。理事会で積極的な議論がなされていることはいいことだと思います。一方で会員との温度差も感じながら県士会運営をしていかなければなりません。代議員の立候補においても少ない職場から立候補してもらえよう取り組みを進めて頂きたい。理事が中心となり取り組んでください。

以上
(文責：玖島弘規)

2025年度 2月 理事会 議事録

日 時：2025年2月13日(金) 19:00～21:12

開催方式：対面

場 所：事務局

出席理事：神保武則(会長)、田中ゆかり(副会長)、遠藤陵児(副会長)、望月強伸(事務局長)、玖島弘規、神田崇央、澤口勇、佐々木秀一、神保洋平、村中隼一郎、佐藤隼、石川恵美子、佐伯まどか

出席監事：錠内広之、野々垣睦美

欠席理事：奥原孝幸(副会長)、山勢健太郎、佐藤範明、青木啓一郎

I. 会長より挨拶

今回の理事会でも引き続き、次年度の事業計画・予算案について検討を行っていきます。各部横の連携を考えた事業計画を策定していければと思います。

日本作業療法士協会の第4代会長を務められた杉原素子先生が、2026年2月5日にご逝去されました。

心からご冥福をお祈り申し上げます。

II. 審議事項

1. 部員承認

→賛成多数で承認。

2. 休会承認

→賛成多数で承認。

3. エリア化 令和7年度助成金申請(2件申請)

→2件申請あり。エリア化内で審査。

1件は会員要件・営利性の項目から「不可」

もう1件については、「可」となるが、講師が内部構成員となっており「特定の個人が利益を受けるもの」とならないように注意喚起。

以上の内容で理事審議、賛成多数にてエリア化内での審議内容で承認

4. Webサイト構築パートナー選定について

→スタジオチャージ/Xデザインの2社で検討。各社プレゼンテーションを行い協議の上、スタジオチャージ社を賛成多数にて承認

III. 報告事項(各部署・理事・三役)

1. 県外査読者 依頼について

査読数増加から2名の県外査読者を依頼

2. 学会支援課マニュアル改定に伴う理事アンケート報告

①学会参加費の基本方針、②運営スタッフ体制、③後援依頼の分担とマニュアル化について理事に意見聴取を行った。以下に意見を踏まえた提案を記載する。

①学会参加費の基本方針

正会員、非会員、他職種などの区分に応じて金額を設定。

学生の参加費については引き続き検討していく。金額については賛成多数のため承認された。

②運営スタッフ体制について

無償/有償ボランティアを検討。実行委員自体の位置付けや待遇については引き続き検討していく。

「ボランティア」という名称については変更を検討。

③後援依頼の分担について

学会支援課と事務局が連携し後援依頼の取りまとめを行っていく。方針については賛成多数で承認。

詳細については今後詰めていく。

3. Confit使用に関するアンケート実施について

Confitの契約が次年度で終了する。今後の業者選定についてアンケートを実施予定。

4. 南関東ブロック合同開催学会発起について

全国的にも各都道府県士会が単独で学会を開催する傍ら、ブロック単位で合同学会の開催を実行している。横のつながりをつくるためにも開催してほしい。開催に向けて前向きに進めていく。

5. 教育部研修謝金規程に関して

臨床実習指導者講習会謝金規程、MTDLP指導者謝金規程について提案。現行の謝金規程と照合し、規程を整備していく。

【その他報告部署・理事】

IV. トピックス

1. 2026年度事業計画・予算案について

事業計画及び予算案については2回目の見直しを行った。予算額は¥20,871,690円であり、1回目予算額より減額している。事業計画及び予算案について3月理事会にて審議予定。

・研修会費用について

理事へのアンケート結果を共有。2026年度の発送回数については現状の3回を維持する意見が多かった。会員のメールアドレスが聴取できれば配信に変更してもいいのではないかとの意見も聞かれた。2026年度においては3回の発送とする。

・エリア化について

エリア化の方針として、エリア担当理事、エリア長、市区町村窓口、エリアミーティング担当を各エリアに配置する。2026年度はエリアごとにチームを立ち上げ、運営を開始しエリア運営の課題を抽出する。また現場の運用とエリアごとの地域が抱える課題を抽出することを目的とする。

具体的な活動としては、エリアミーティング・エリア連携推進会議・エリア運営会議を開催する。

V. 連絡事項

1. 総会関連について

総会開催日は5月10日(日)午後決定。総会までのスケジュールについては配信資料を各自確認。

期末監査は4月4日(土)実施予定。期日までに監査書類を準備し提出をお願いしたい。

2. 代議員選挙について

Aブロック5名、Bブロック3名不足している。引き続き推薦をお願いしたい。

3. 県民ニーズへの提案会議について

県庁職員に対してMTDLPを活用したセルフマネジメント支援について提案を行った。とても好感を持って話を聞いてくださり、OTの活用について前向きに捉えていた印象。生活支援をキーワードに引き続き提案を行っていく。

VI. 監事より

野々垣監事:

エリア化も進んできており広報を積極的に行っていけると良い。別件ではあるが高次脳機能障害関連の法案が可決され、4月から施行される。神奈川は高次脳機能障害への支援が進んでおり更に進めていけると良い。ぜひ情報を収集し支援の輪を広げて行って頂きたい。

錠内監事:

会費や研修会費などの増額について検討することはいい事ではあるが、新人の給与や金額に対して実状を踏まえて検討していく必要がある。また団体としての慶弔の付き合いを考える必要がある。個人として対応することはもちろんであるが団体としてどのように対応していくか考えてもらいたい。

以上
(文責：玖島弘規)

2026年度定期社員総会開催のお知らせ

この度、2026年5月10日(日)に2026年度定期社員総会を開催する運びとなりました。会場は神奈川県立かながわ労働プラザにて現地開催となります。詳細は神奈川県作業療法士会のウェブサイトをご確認下さい。

(文責 事務局 玖島弘規)

神奈川県作業療法士会入会案内(新卒必見!)

当会では昨年度より、「その年に作業療法士国家試験に合格した方が、当該年の12月末日までに正会員入会申し込みをされると入会金及び初年度年会費の納入が免除」となります。

新卒者の経済的負担を軽減し、作業療法士の第一歩を後押ししたいとの思いから導入されました。県士会に入会されていない新卒者の方がいましたら、ぜひご紹介ください。

詳細は神奈川県作業療法士会のウェブサイトをご覧ください。

(文責 事務局 玖島弘規)

事務局からの お願い

●届出内容を変更される方

住所・勤務先・氏名・送付先等の変更がある方は、『登録内容の変更届』を①郵送 ②FAX ③電子メール(kaiin@kana-ot.jp)にてご提出願います。(随時受付)

編集 後記

新年度です。私の周囲の環境は大きく変わりそうで、期待もある反面、不安も芽生えます。そんな不安を感じた時は冷
水で手を洗う(濡らす)と落ち着いて良いと聞きました。末梢の冷却効果が心理的な安定に一役買ったそうです。ほ
んとかな??精神領域で働かれています方、教えてください!ほんとだとしたら、新年度、私の手は絶えず水びたしにな
るかもしれません。

(びぐめい)

一般社団法人 神奈川県作業療法士会ニュース(238号) 2026年4月発行(年5回発行)

発行責任者 神保 武則
編集責任者 野本 義則
編集担当 出口 弦舞(国際医療福祉大学小田原
保健医療学部 作業療法学科)
山岡 洸(湘南慶育病院)
佐藤 愛(悠の木株式会社)
丸岡ちひろ(済生会横浜市東部病院)
松井 洋鷹(刈野辺総合病院)
碓屋 瑛理(佐藤病院)
印刷 発送 株式会社高陽印刷所

事務局 〒231-0011
横浜市中区太田町4-45 第一国際ビル301号
TEL/FAX: 045-663-5997
月火水木金 10:00~15:00
メールアドレス: jim@kana-ot.jp

一般社団法人 神奈川県作業療法士会ウェブサイト
<https://kana-ot.jp>
→ 作業療法 神奈川 検索



Facebook <https://www.facebook.com/kaotwebkan>
X <https://x.com/kaotwebkan>